

発行日：2020年9月1日

発行責任者：医療法人社団憩樹会 則武内科クリニック 院長 則武 昌之  
〒300-1207 茨城県牛久市ひたち野東5-3-2 池田ビル1F TEL: 029-871-7878

## 私の履歴 59

### アマゾン（ネグロ川）フライ釣行記（1-1）

ピーコックバスとは？

ピーコックバスとはスズキ目シクリッド科キクラ属の淡水魚の総称であり、正式に記載されているだけで15種類が報告されている。したがってピーコックバスという魚がいるわけではない。ピーコックというのは「孔雀」のことで魚の尾の付け根の部分に孔雀のような白っぽく縁取りをされた黒い斑点がみられるために命名されたとのことだ。南米（アマゾン水系）を原産地とし、強烈なアタック・引きの強さ・派手なジャンプを繰り返すため至高のゲームフィッシュとして有名である。そのピーコックバスを釣りにアマゾン川水系のネグロ川に遠征しないかと2019年の春にお誘いを受けた。体力的に大丈夫かなあと不安もあったが、「今行かないと一生行かないだろう」という思いもあって一念発起、ツアーに参加することにした。

暮れもおしつまった2019年12月27日午前7時に自宅を出発。8時半に成田空港に参加者11名が集合した。私のみが64歳で、ほかには20歳代4名、30歳代2名、40歳代2名、50歳代2名の構成だった。最高齢の私はこれからの長い旅に備えて成田空港で一人でストレッチを黙々とくりかえした。午前



▲バルセロス周辺のアマゾン川

11時半に成田→ダラス便に搭乗し、翌朝8時半にダラス着。昼の12時半にダラス→マイアミへのフライト。マイアミでマナウスへの便が4時間遅延してしまい、結局22時半に出発となった。マナウスに着いたのは朝の5時。ここまで来ただけで体力を消耗したのが分かる。持病の腰痛も加わり、ちょっとつらいが、これからの旅と釣りのために私はマナウス空港でも何回もストレッチを繰り返した。

（裏面へ続く）

## information

看護師 島田 孝子

### 「治験」ってなあに？

新型コロナウイルスの猛威が続いています。皆さんも日々感染予防を行われていると思いますが、ワクチンと治療薬の開発が急がれます。最近世界各国のワクチンの開発状況についてニュースで聞くことも増えてきました。

現在、イギリスの製薬会社ではワクチンの治験が第3相試験まで進んでいると先日のニュースで見かけました。皆さんは「治験」とは何かご存知でしょうか？

治験は新しい薬が厚生労働省から認可され発売されるために必要な過程となります。新しい薬が治験によって効果があり安全であると証明されなければ私たちの前に出てくることはありません。皆さんが現在飲まれているお薬もこの治験によって効果と安全が確認されてきました。

治験にはいくつかの段階があります。第1相では健康な人でごく少量のくすりから、徐々に増やし、安全性を調べます。第2相では少数の患者さんでくすりの効き目や副作用とともに、効果的な使い方（量）などを調べます。第3相では多数の患者さんでくすりの効き目や安全性が、多くの人にも当てはまるかを確認します。そしてこれらの情報を厚生労働省に提出し、承認されると私たちの前に新しい薬としてお目見えとなります。ちなみに第4相試験もあり、これは承認されたあとも効果と安全性について調べるものです。

これらの治験では健康な人や疾病を持つ人のご協力、ボランティアによって成り立っています。当院は糖尿病に関する治験実施施設であり、これまでに多くの方に参加して頂きご協力いただいています。新型コロナウイルスの治験が進み、早く私たちの前に新しいワクチンと薬がお目見えする日が待ち遠しいですね。



### — 休診のお知らせ —

2020年9月～11月の診療予定です。  
宜しく御了承ください。

#### 9月 September

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

#### 10月 October

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

#### 11月 November

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

## アマゾン（ネグロ川）フライ釣行記（1-2）

### マナウスからセスナに乗る

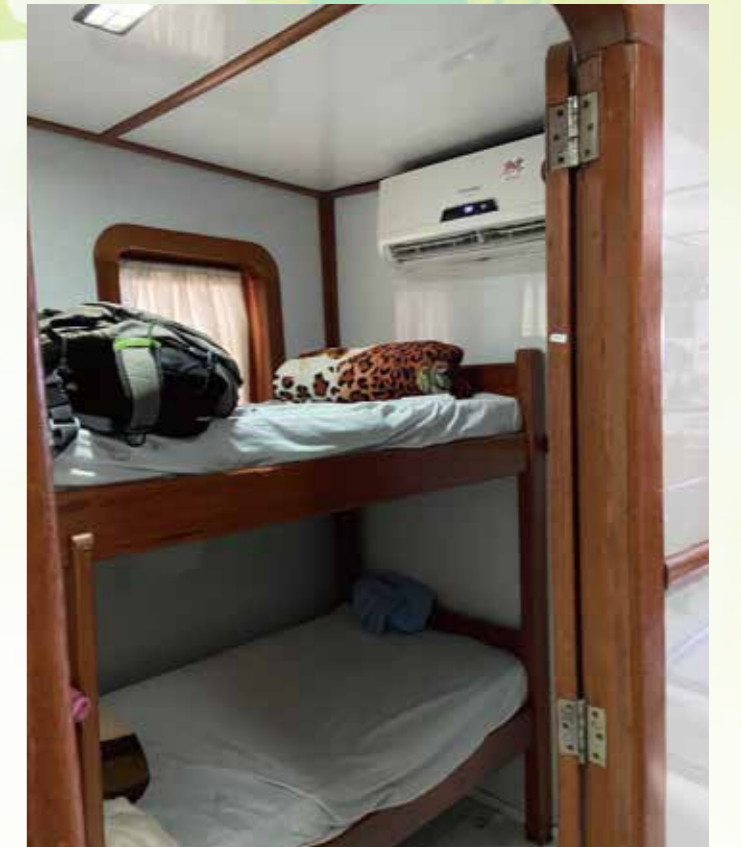
我々のアマゾンツアーの11名、ツアーコンダクター、我々とは関係のない外国人（おそらくアメリカ人）1名の合計14名が搭乗したセスナでマナウスを出発だ。出発に際して機長が何か我々に話していたがまったく理解不能だった。多分、安全についての話だったと思うが、我々はただ適当にうなずくのみでほとんど意味のない儀式のようなものだ。双発のプロペラ機で飛び立つとすごいエンジン音だ。そういえば日本ではいつものことだった耳鳴りが今日は全く気にならないことに気づいてちょっとびっくりした。すぐにアマゾン川が左に見えてきた。でかい！悠然と流れている。しばらくして大地が雲海の下に見えた。ずっと向こうの地平線まで広がるまっ平らな密林が見える。壮大な景観だった！雲の切れ間からゆっくりアマゾン川が顔を見せる。今度は支流の沼地のような地形が見える。しばらくするとまた雲海が途切れてきた。鬱蒼としたジャングルを裂くようにアマゾン本流と支流が滔々と流れている。人家は絶え、アマゾン川の周辺のジャングルの中にいくつもの複雑な形をした沼（ラグーン）の姿が見えてきた。いつしか私は初めての景色に引き込まれてしまい景色に見入っていた。疲れも吹き飛んでしまい、これからの釣りへの期待で心が一杯になっていた。その後アマゾン川が見えなくなり、またジャングルが続く平坦な森が地平線まで続いていた。

### バルセロス

1時間半ほどのセスナでのフライトが終わり、ようやくバルセロスに到着だ。空港といっても滑走路と平屋のコンクリート造りの空港建物とあばら家のお土産売り店が一軒建っているだけだ。そこで私は娘用のアクセサリーを買った。そこからバスでバルセロスの中心部を抜け、10分ほどでアマゾン河畔



▲ Valsa号への乗り込み



▲ キャビン内部

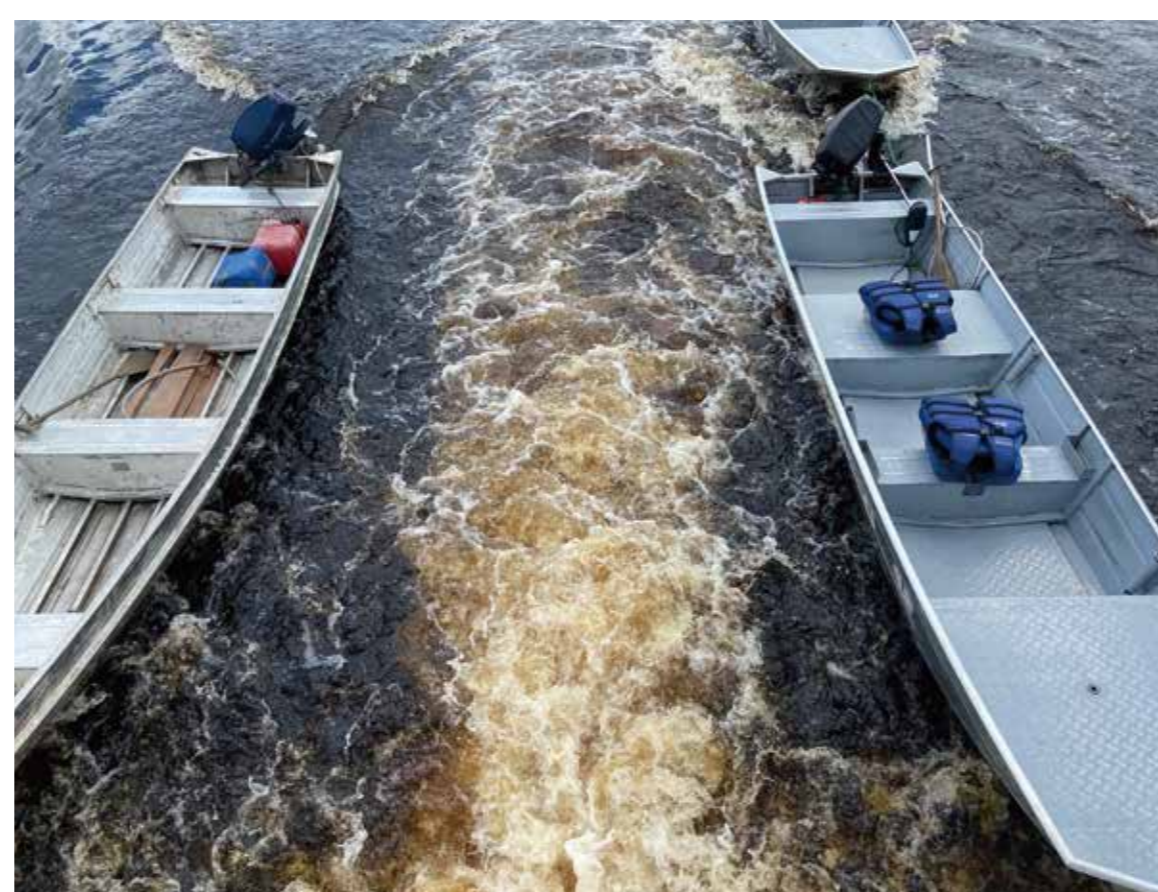
に着いた。南米らしい田舎町だが、きれいな教会など立派な建物もいくつかみられる。バスを降りると目の前にアマゾン川が見える！さすがに大きい。船着き場には白くきれいな船が何艘も停泊している。そのうちの一隻が我々の宿泊するValsa号だった。このValsa号をマザーシップ（母船）としてここに宿泊しながらアマゾン川水系の様々なポイントに入って釣りをする予定になっている。胸を高鳴らせながら我々は何艘かのボートに分乗してValsa号に乗り込んだ。船の中は決して豪華ではないが清掃されていた。船室（cabin）は狭いが、シャワー・トイレが各キャビンについている。船内に料理人もいて料理を作ってくれるし、ランドリーもあって毎日の下着やフィッシングウェアの洗濯もしてくれる。実際に釣りに行くときには母船からそれぞれ二人ずつボートに乗り込むシステムになっている。各ボートにはそれぞれブラジル人のガイドが一人いて、そのガイドが思い思いのポイントに連れて行ってくれることになっていた。私のバディーとして6日間同じキャビンに宿泊し一緒に釣りをしてくれるのはツアーコンダクターの村ちゃんに決まっていた。そして我々のガイドはジュディオと言う名前だった。今回のツアー客のうち私だけがフライフィッシャーで、他の人たちは全員がルアーフィッシャーだった。

勇躍Valsa号に乗船を済ませ各キャビンに落ち着くとすぐに食堂で早速ランチをいただいた。私が持参したブラックバスの形をしたサンダルを履くと、その形と絵柄がとても面白いらしくブラジル人たちにとても受けていた。サラダ・ポテト・マトンカレー・パッカ（アマゾンのピーコックバスの幼魚で日本のホッケと似ている味だが、身に少し歯ごたえがあっておいしい）だった。

（次号へ続く）



▲ 母船（Valsa号）への乗り込み用ボート



▲ 母船後部に係留されている釣り用のボート